

九州商船株式会社

フェリーなみじ最終航海

離島航路を支えてくれてありがとう

長崎県佐世保港～五島列島の一つ、上五島の有川港を結ぶ九州商船株式会社の「フェリーなみじ」が最終航海に臨み、多くの島民や関係者が別れを惜しんだ。「フェリーなみじ」は昭和 62 年 12 月に就航し、定期航路で就航しているフェリーとして日本国内では最も古い船であるが、船体や機器の保守状態も良好で 37 年間の長きにわたり、離島航路を支えてきた。5 月 30 日からは、代替船「フェリーニューこしき」（総トン数 940 トン、旅客定員 381 名）が就航し、佐世保港～有川港の航路を一日二往復し、上五島の島民の生活航路として、また、五島列島を訪れる観光客に充実した船旅を提供し、離島航路を支えていく。

九州商船株式会社は、前身の九州汽船が 1911 年（明治 44 年）創業の老舗の海運会社であり、西九州から南九州にかけ、さまざまな航路で旅客船・カーフェリーのほか、水中翼船やホバークラフトなども運航し、現在は長崎～五島・上五島、長崎～上五島・佐世保～宇久・小値賀・佐世保～上五島の航路などを中心に、フェリー 4 隻と高速船 3 隻、ジェットフォイル 2 隻を運航し、離島に住む人々の生活を支えている。

これまで 37 年間にわたり、佐世保港を基点に活躍してきた「フェリーなみじ」が、代替船「フェリーニューこしき」と交代し、5 月 30 日の最終航海で引退の日を迎えた。最終航海には多くの利用客や関係者が、各港の岸壁に見送りに訪れ、佐世保～上五島航路の顔であった本船との別れを惜しんだ。翌 5 月 31 日には船籍港の長崎港へ回航し、青空が広がる穏やかな天候のなか、白地に緑色の船体がゆっくりと長崎港の柳ふ頭へ、ゆっくり着岸した。

回航を終えた戸村景介船長は「九州商船株式会社に入社して 2 年後に本船が就航し、自身も佐世保地区の船員である時期も長かったことから、本船とともに船乗り人生を歩んできたといっても過言ではなく、本船最後の船長として役目を果たしたことは感慨深い。37 年間にわたり安全運航を保つことができたことは、これまでの乗組員たちの努力の賜物であることに感謝したい」と語った。

また、中野重男機関長は「当社において自分の先輩にあたる本船は、高船齢によるトラブル対応など大変なこともあったが、無事に航海を終えることができた」と話をしてくれた。

「海員だより」